

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度第4回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

- ・令和3年度地域活動支援事業について（公開）

## 3 開催日時

令和3年6月10日（木）午後6時30分から午後7時56分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

## 5 傍聴人の数

3人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、田中 実、田村雅春、林 昌宏、古澤悦雄、増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：水澤委員、磯田委員に依頼

議題【協議事項】令和3年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

資料No.1 「令和3年度 直江津区地域活動支援事業 採点総括表」

資料No.2 「令和3年度 直江津区地域活動支援事業 その他特記事項等一覧」に基づき説明

【中澤会長】

それではNo.1から協議していきたいと思う。

「No.1 クリーンナップ上越in五智事業」についてはどうか。

【田中実委員】

採択されても、特記事項はつけておいたほうが良いと思う。

【田中美佳副会長】

確認だが、特記事項を実行しなければ駄目というほどでもないが、事業実施にあたっての留意事項と認識した。ただ書いただけで注意してくださいという内容の特記事項もあるのか。

【増田委員】

特記事項は「この条件は満たしてください」というふうに強い注文をつけるものもあれば、今ここに書いてあるように「散水車を使用した際に必要としない」というふうに書くと「散水車は認めないのか」ということになるので、そういうことではないと思うので、その辺の区別をしないと皆さんが混乱すると思う。

田中委員がおっしゃったように「こういう意見がありました」というのは、口頭で提案者へ伝える。正式に文書に書くと強い意味があるので、そこまでは必要ない意見は口頭で伝えるという扱いが良いと思う。

【中澤会長】

意見の伝え方は、書面か口頭で伝えるかのどちらかになる。

【磯田委員】

口頭という話は、前にも出ていたが、1個人の意見を伝えるというわけではなく、会議の中での、文書にはしないが口頭で伝えるというレベルだったと思う。皆さんから出てきた1人1人の意見がそのままここに書かれている。これを1つ1つ口頭で伝えるということは、協議会の意見として伝えることとは違う話になると思う。

これを口頭で協議会として伝えるのであれば、ここで議論をすべきだと思う。

【古澤委員】

口頭よりも文書でこういう理由があつてという形で示されたほうが、受け手のほうも納得するのではないか。個人的な意見等々があるので、それは避けたほうが良いと思う。皆さんの総括的な意見のもとで、それを文書にして要点をまとめて話したほうが良いと思う。

【田村委員】

協議会として意見をつけるか、口頭か、文書がいいかは委員の責任として出したほうが良いのではないか。

【中澤会長】

地域協議会として、意見を伝えることに賛成の委員に挙手を求める。

(挙手少数)

- ・提案者へ伝えないことで同意を得る

次に「No.2 五智公園の整備、有効活用支援事業」についてはどうか。

最初にベンチについて意見を求める。

【田村委員】

2番目の記載だが、本来行政がやるべき仕事が地域活動支援事業に回っている疑念を持っているので、一石を投じたくて記載した。

枝切りやベンチの問題は、地域活動支援事業とは何かが問われているような項目だった。前回ベンチの問題はそういうことからかなり疑念を持たれた。私はベンチが悪いとは言っていない。今回5か年計画で整備事業をやると言っているが、その中にベンチが入ってくるのかわからない。

市が公園整備の5か年計画で計画を立てているような話だが、それまで待てないのだと思う。そういう意味でグレーゾーンがありすぎるのではないかと思った。

前回の会議でセンター長が建物を整備するのは市の管理であつて、移動できるものなら整備にならず、地域活動支援事業でも良いといったお話をされたが、その辺も含めて微妙だなと思ったので私は丸をつけた。

【中澤会長】

真意をお聞きしたので、文書についてはこだわらないということでよいか。

他の特記事項記載内容について意見を求める。

【磯田委員】

3番目については、ベンチは認められないと言っているのと、昨年度、提案したベンチを不採択とした協議会として今年度採択することは判断ミス、あるいは誤りという表現になっている。前の意見交換の時にも判断が変わっても良いのではないかとしたが、ここについては議論すべきではないと思うがいかがか。

**【中澤会長】**

判断が変わったというよりも、もう1度再確認したということかと思う。その話は前回終わったと思うが、事務局のほうへ追加説明を求める。

**【中村センター長】**

自治・地域振興課に地域活動支援事業実施要綱に定めてある施設の整備の内容を問い合わせたところ、施設の整備という場合は、建物に固定するものということで整理させてもらっているという回答であった。

今回、ベンチは固定しないのであれば、地域活動支援事業の対象となりうるということを確認した。

**【増田委員】**

自治・地域振興課がそういう回答をしてきたが、それはこちらが「どういう判断をしましょうか」と聞いたので「こう判断しましょう」と言ってきたのである。そのように聞かないで地域協議会だけで、いろいろ判断しているものが沢山ある。

実際にエアコンが採択されたりしているので、自治・地域振興課の考え方はおかしいと私は思っている。

もう1つは、ここに書いてあるとおり、行政が設置してくれないから地域活動支援事業でと言っているようだが、そういう性格のものではない。直江津区だけではなくいろいろなところで起きている。行政が設置してくれないから支援事業で設置すると言っている。そういうことが頻繁におきていることが必ずしも良いことだとは思えない。直江津区としては、きっちりけじめをつけたほうが良いという観点から、それは駄目という判断が良いのではないか。これは採決で決めていただければと思う。

**【青山副会長】**

ベンチの件だが、採択されたら冬場はそのまま置いておくのか。管理をしないと早く駄目になって、またここに提案する状況になるのではないか。冬場はどうするのか確認してほしい。

**【中澤会長】**

ベンチを採択しないことに賛成の委員に挙手を求める。

(挙手少数)

- ・ベンチを採択することで同意を得る。

ベンチを設置するに際して、提案者に伝えたい意見を求める。

冬場の管理をしっかりとしてほしいと伝えたい。

**【田中美佳副会長】**

皆さんが書かれた内容を少し抜粋して文書にしたらよいのではないかと。

**【丸山委員】**

地域活動支援事業で購入した備品類の財産権は申請団体にあるのか。そうであれば、冬場だろうが夏場だろうが処分するときも、この団体が責任を持って管理しなくてはならないということが良いか。それだけはっきりすれば大丈夫である。

**【中澤会長】**

それは当然のことである。

**【増田委員】**

地域活動支援事業で買った備品は、団体でしっかり管理するのは当然伝えるが、きちんと管理簿を作るということを前に決めてある。その確認は、行政が責任を持ってやることになっているので、あとは行政がしっかり確認していただきたい。消耗品だから紛失したとか、無くなった場合は何で無くなったか管理してもらわないと困る。税金を使ったものなので、そこまでしっかり管理して、それだけのしっかりした考えを各団体には持って欲しい。

**【中澤会長】**

備品台帳を作ってきちんと管理することは、前々から確認はできている。

**【水島委員】**

この地域活動支援事業で1度否決したもの、行政もそういう意向だったものが、今年センター長が確認したら「固定しなければ大丈夫」という話になった。市役所全体がそう思っているのか。それとも担当者個人の意見なのか。市役所は何年か経つと、そのポジションの人が変わる。その時にまた違う状況が出てくるのではないかと。

**【中澤会長】**

これは個人の見解ではなく、市の見解ということで事務局に聞いていただいた。

それでよろしいかと。

**【水島委員】**

市の見解はわかる。しかし、何かの会議をやってこれを決めたわけではない。私はこの地域協議会が軽視されているように考えてしまう。去年は駄目だったが今年問い合わせてもらったら良くなった。また来年もそういうことが多く出てくるのではないか。

**【磯田委員】**

去年、我々はベンチについて否決した。五智公園を育てる会の人たちの活動を見たり視察に行ったりして、このエリアにはやはりベンチが必要なのだという認識を持たれた委員もいると思う。書面だけの判断、あるいは杓子定規な線引きの中で駄目とおっしゃっていた人も、実際の現地を確認し、この会の趣旨や公園を散策する市民の人たちへの公共性、あるいは利便性を考慮した時に、本来、行政がやるべきものだがなかなか設置できないとすれば地域活動支援事業で出しても良いのではないかと判断をされた委員もいたと思う。その中での判断だと私は受けとめているので、判断が、前年度と変わったとしても、それは今回の委員がそういう判断をしたということなので、それはそれとして認められるべきことではないかと思う。

**【中澤会長】**

- ・提案者へ伝えないことで同意を得る

次に「No.3 直江津地区寄り道ライブ支援事業」についてはどうか。

**【古澤委員】**

予算を見ると、練習の金額が半分以上になっていること、人の集め方についてもきめ細かにやっていない。これが本当に直江津のためになるのか、皆さんが競ってそこに参加するのが疑問である。

**【中澤会長】**

公益性が薄いということかと思う。

次に「No.4 直江津区U-40 社会人サークル立上げ事業」についてはどうか。

立ち上げることが目的になっているので、その辺に誤解があったのではないかと思う。団体を立ち上げる時には、その辺は慎重にしなければいけないと思う。

**【増田委員】**

地区外者の提案は許されている。これを見ると地区外者の提案は駄目のように取れる。この団体は他でいろいろなサークルを立ち上げているが、そのサークルがごく限られた人たちのサークルになっていて広がりが出ていない部分があるとすれば、趣味でサーク

ルを立ち上げているという感じに受け取れるので、考えなくてはいけないと思う。

【中澤会長】

次に「No.5 上越市『地域の宝』北前船がはこんだものガイド作成事業」についてはどうか。

【田村委員】

上越市主要事業プロジェクトの概要に、北前船に関して教育委員会を通じてやろうとしている。これとの関係が微妙だったので、上越市でやってもらえば地域活動支援事業を使う必要がないと思ったので不採択とした。公的機関がやろうとしているのに別の項目を作ると困るので整合性が微妙かと思った。ガイドを作ることだが、正確なガイドなのか、どちらが正しいのかわからなくなるので、私は反対した。

【中澤会長】

市に関連するものは市の方からもチェックしてもらっていると思う。

【田村委員】

市がやったらいいと思ったので反対した。

【中澤会長】

- ・提案者へ伝えないことで同意を得る

次に「No.6 『直江津のグランドデザインを描く』事業」についてはどうか。

【丸山委員】

この事業について、私は不採択とした。採択方針のところで迷ったが合わないと解釈した。これは調査研究事業なのかと思う。そういう事業に対して地域活動支援事業が対象なのか疑問に思った。実際に活性化するために何か具体的にイベントをやるとか、講演会をして勉強会をやるとか、そういうのはわかるが、これは単に調査研究としか感じなかったので自分の仲間同士自費でやっても良いと思う。

【中澤会長】

他にないか。

この事業については、来年以降続いていくかは、年度末の提言書が勝負かと思う。やるほうとしては、非常に大変な事業ではないかと私は捉えている。

【田村委員】

調査研究と言われたが、いろいろな方面から直江津のデザインを作る、活性化させるために動くのは良いと思ったので、考え方としては正しいと思って採択とした。

いろいろな方面から意見を出しても、地域協議会は地域協議会でやれば良いし、他の団体は他の団体でやれば良い。多方面からやったほうがいろいろな意見が出て良いのではないか。それをまとめる力があるかまだわからないから、その辺も含めて今後の期待を込めて賛成した。

#### 【古澤委員】

これは地域協議会の課題でもある。昨年も町内会長、各団体の人と意見交換をした。それは意見の出しっ放しで話が終わっている。やはりここで、ある程度一定の方向性が見えてくるのかなというふうに思っている。計画書を見る限り本当に素晴らしいことが列記されていて、内容も充実したものがあるので、ぜひ成功させていただければと思っている。

#### 【中澤会長】

- ・提案者へ伝えないことで同意を得る

次に「No.7 天王川クリーンナップ大作戦事業」についてはどうか。

「1回では綺麗にならないので2回やってください」という意見がある。提案者は十分に計画を練ってほしい。

次に「No.9 古城小学校閉校記念に伴う記念誌作成事業」についてはどうか。

- ・提案者へ伝えないことで同意を得る

次に「No.10 《直江津港から元気発信》事業」についてはどうか。

- ・提案者へ伝えないことで同意を得る

次に「No.11 海鮮市場事業」についてはどうか。

「飲食に伴うテイクアウトは必ず実行してください」という意見は私が出した。今の時点で判断しているので、これを守ってもらわないと賛成できないのでこの条件を出した。

#### 【田村委員】

昨日の党首討論で菅首相は全国民にコロナワクチンの接種が終わるのが11月と言っていたが、コロナ問題がある限り、名前を書かないで誰が来るかわからない状態で本当にやって良いのか。責任を持ってないので不採択とした。

#### 【中澤会長】

他にないか。

採択されているので、個人的には「テイクアウトは守って欲しい」とぜひ伝えて欲しい



い。

【丸山委員】

テイクアウトだが、これは保健所の考えだが「基本やって欲しくない」食中毒の可能性が高いのでやるのであれば「保健所の指導に従って、しっかりとやってください」という形が良いのではないかと。「テイクアウトを絶対にやれ」と言うとは微妙である。

【中澤会長】

「保健所の指導に従ってテイクアウトは守ってください」という意見に賛成の委員の挙手を求める。

(全員挙手)

- ・提案者へ伝えることで同意を得る

【今川委員】

地酒サービスに関して何の質問もなかったが、鏡割りをするがテイクアウトするわけではないと思う。皆さんの意見を伺いたい。

【中澤会長】

それも含めてテイクアウトしてくださいということである。できないのであればやめて欲しい。

【水島委員】

コロナの話が問題になっている。「これは飲食を伴っているから、コロナが心配で保健所の指導も受けてください」それはわかる。ただ、すべての事業に関してコロナが関係ないのかと言ったら、そうではない。それを判断しなければ実はいけない。この事業だけに言うのはどうかと思う。突き詰めると飲食が伴うからテイクアウト、しかも保健所の指導を受けてください。他では弁当を食べないのか。今のコロナは変異が出てきて強くなってきている。どこで感染したかわからない人が非常に多くなってきている。前は飲食に関係した感染者が非常に多かったが、違う状況がどんどん出てきている。

ただ、それまでに予防接種が終わるから、少しは良くなるのではないかという話があったが、それを信じるとすれば、あまりここで、そこまで協議しなくて良いのではないかと。協議すると非常に難しい。やるか、やらないかになってしまう。

【中澤会長】

他で飲食を扱っているところはない。四十物祭のところは販売だけである。その場で飲食するのと販売は全然違う。

**【増田委員】**

地酒サービスは、基本的にその場で飲む。その時にマスクを外す。マスクを外した時が一番危ない。だから会長がおっしゃるとおり、これは考えた方がいい。水島委員が言うように、人が混んでいるところが非常に危険である。特にマスクを外すときが一番危ない。だから地酒サービスは考えてほしい。この趣旨はきちんと提案者へ加えて伝えたほうが良いと思う。

**【中澤会長】**

次に「No.12 『なおえつ物語』発信事業」についてはどうか。

**【増田委員】**

この意見は質問のときに出して欲しかった。今ここで出されても提案者は答えようがない。最初にこんな意見があったと口頭で伝えたら良いのではないか。

全く伝えないとどういう論議がされたのか傍聴にこない限りはわからない。何にも伝えないと実はカツカツで不採択になったとか、カツカツで附帯意見をつけなかったことが向こうに伝わらない。中には提案の際に真剣に考えて欲しいという意見もある。それは提案の時に考えてくださいとか実行のときに考えてくださいの意見なので、文書として必要条件として使える項目ではないという扱いだと思う。

**【磯田委員】**

増田委員がおっしゃったように、質問のときにしていただくという趣旨の質問だと思う。実際にこのパネルは、公道に立っているわけでもなく私有地に立っている。今まで何年も立っていた看板の骨をベースにやるという事業なので、風に対する心配は皆無である。それをわからずにこれを伝えると、何を検討してきたのかという話になるので申し伝えておく。

**【中澤会長】**

伝えなくてもいいということか。

次に「No.13 鉄道の町『直江津』発信事業」についてはどうか。

**【田村委員】**

私は、採択としたが意見はつけた。南口の動輪の手入れが悪すぎる。錆が出てみずぼらしくなっている。あれを北口に持ってきて本当に成り立つのか。今年で直江津駅ができて135年である。信越線が通ってその記念事業みたいな部分もあったので、鉄道を生かすまちづくりをしたいと思っている点は、共感できるので採択した。

【中澤会長】

不採択の意見を、何らかの形で提示しないと納得しない。やはり費用対効果の問題か。地域協議会としては、動輪を持ってきてもあまり効果が出ないのではないかと判断した。

【磯田委員】

共通審査の基準の中で、公共性、必要性、実現性、参加性、発展性という項目があつて、これは、どういう公共性を実現できるものなのか、あるいは、動輪の位置を動かすことの必要性はどうなのか、それぞれの項目で皆さん判断していると思うが、その中で1点や2点しかつかないというのが私の判断である。参加性は、市民と一緒に何かするのかというところでもない。発展性は、動輪を動かしてどう発展させるのかも書いてない。より具体的な話はビジョンの中に示されていない。総合的に判断すると不採択と判断をした。

【中澤会長】

他にないか。

提案者に要望するのは、海鮮市場だけである。

【小川係長】

総額が585万4,000円となった。配分額が970万円なので、残額が384万6,000円となる。

残額について追加募集を行うか、残額とするかをご協議いただきたい。

【中澤会長】

- ・二次募集はするが、三次募集は行わないことで委員から同意を得る
- では、追加募集の期間について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・6月25日発行の広報上越に併せて周知したい
- ・募集期間の事務局案：7月1日（木）から7月21日（水）まで

【中澤会長】

- ・協議の結果、募集期間は事務局案どおりとすることで委員から同意を得る
- 次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

- ・上越市ホームページ「なおえつ うみまちアートが開催されます」に基づき概要説明

【久保田委員】

第2回の実行委員会で今の概要が決まった。作家も8組決定してきている。4組は4会場のところを主に展示ということで、現在実際現地に行き、どのような形で製作するかという模擬的な行動まで行っている。

実行委員会は6月に1回、7月に1回行い、その時点でおおよその方向が固まってくるのではないと思う。4会場を展示するプラスアルファの4名の方がすでに活動をしていて、実際にこのシャツを着て普段の生活を皆さんからしていただき、町中の彩りを作っていく。それを一つに集めて1枚のアート作品にして、最終的に展示するという方向になっている。

チラシを各町内会の方に配布し、回覧でボランティアの募集を開始している。実際に開催されると各4会場にもボランティアをお願いする段取りになっている。

**【中村センター長】**

コロナウイルスの感染対策として、事務局員、作家の皆さんには健康記録の提出、PCR検査をした後に直江津に来ていただく、施設内の消毒や換気などを行うなどの徹底を図って参りたいと事務局では考えている。また市のホームページのほかに実行委員会でもホームページを立ち上げる準備をしている。

**【中澤会長】**

他にないか。

**【田中実委員】**

地域活動支援事業の残額があるが、地域協議会委員も提案しても良いのか。

**【中澤会長】**

希望者があったら、積極的に提案してほしい。

次に、次回の協議会について事務局へ説明を求める。

**【中村センター長】**

- ・次回の協議会：7月13日（火）午後6時30分～
- ・次回の議題についての報告

**【中澤会長】**

- ・会議の閉会を宣言

**9 問合せ先**

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。